

30年7月分 素材生産業者の活動・先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成30年 7月1日～ 28年7月10日

2. 調査実施方法

全国の素材生産業者に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
7月分の回答企業数は9社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

素材生産動向

品目		30/7月	8月	9月
伐採動向	スギ	28.6	7.1	7.1
	ヒノキ	40.0	10.0	10.0
	カラマツ	0.0	16.7	0.0
	エゾ・トド	0.0	0.0	0.0
出荷・販売動向	スギ	8.3	0.0	0.0
	ヒノキ	12.5	△ 12.5	△ 12.5
	カラマツ	0.0	16.7	0.0
	エゾ・トド	50.0	50.0	50.0
手持立木 在庫動向	スギ	8.3	25.0	41.7
	ヒノキ	0.0	△ 12.5	△ 25.0
	カラマツ	25.0	0.0	0.0
	エゾ・トド	0.0	25.0	25.0

・スギ、ヒノキの伐採動向は3カ月連続増加。カラマツは7月の横ばいから8月は増加、9月は再び横ばいに。エゾ・トドは3カ月連続横ばい推移。

・スギの出荷・販売動向は7月の増加から8月、9月は横ばいに。ヒノキは7月の増加から8月、9月は減少に。カラマツは7月の横ばいから8月増加、9月は再び横ばいに。エゾ・トドは3カ月連続増加。

・スギの手持立木在庫動向は3カ月連続増加。ヒノキは7月の横ばいから8月、9月は減少に。カラマツは7月の増加から8月、9月は横ばいに。エゾ・トドは7月の横ばいから8月、9月は増加に。

モニターからのコメント

(伐採動向)

- ・6月から国有林のカラマツ間伐素材生産請負事業に入っている。地形が良く木の太さも良いので伐採動向はやや増加（北海道）。
- ・国有林の素材生産請負事業を実施中（北海道）。
- ・手山生産の減少により伐採減少（東北）。
- ・スギ、カラマツ皆伐中でやや増加（東北）。
- ・国有林のヒノキ高齢級受光伐を実施中。カラマツは伐採・出材・在庫ともなし（中部）。
- ・スギ、ヒノキの主伐を実施中（中国）。

(出材・販売動向)

- ・流通材が少なく、各工場とも土場在庫が少ないので請負材の販売も増加が見込まれる（北海道）。
- ・請負事業実施中につき出荷・販売は無し（北海道）。
- ・伐採減少により出材・販売も減（東北）。
- ・木材センターへスギ出材やや増加（東北）。
- ・韓国へヒノキを輸出している（中国）。
- ・災害で出材が減っていたが回復してきた。しかし、7月の豪雨被害により再び出材減となっている（中国）。

(手持ち立木在庫)

- ・手持ちの立木在庫が少なくなっているため、国有林の立木公売でトドマツを購入する予定（北海道）。
- ・エゾ・トド在庫に変動なし（北海道）。
- ・手持ち立木は入札でスギを購入したのでやや増加（東北）。
- ・スギ、ヒノキの手持ち立木在庫は横ばい。